

「葛城市地域共創ひろば」

(仮称) 葛城市當麻複合施設 管理運営計画(後編)

2024/11/6 概要版

1. 基本理念

本施設は、市民の生涯学習推進の拠点であると同時に、学習・文化・子育て・まちづくりを中心とした、市民活動の拠点でもあります。めざすは、市民・企業・ボランティア・NPO等、そして市職員が共に地域の価値を創造する、「地域共創のひろば」です。

新たな魅力ある施設とそのサービスが、これまで公共施設を利用している人々に加えて、これまで公共施設の利用がなかった人々や未来を担う子どもたちをも惹きつけ、わくわくするような多様な出会いや発見（セレンディピティ）、そして活動や交流が生まれることを期待しています。

場をひらき、人をむすび、共にまちを育む、私たちのひろば

2. 既存の計画等(略)

3. 本施設の整備及び管理運営の基本的な考え方

(1) 出会い、交流、新たな市民活動の創出

本施設では、出会いや発見と交流、そして多様な市民活動の創出を促すために、図書館資料を人と人をむすぶ結節点として活用することをはじめ、様々なしなかけを工夫します。

(2) 多様な市民活動の継続を支える施設としての2つの役割

本施設では、「直接活動をする場としての役割」に加え、本施設のみならず、民間施設も含めた「他の施設でも活動が継続できるように支える役割」を持たせます。2つの役割を同時に担うことで、従来の利用者だけでなく、より多くの市民が本施設で活動のきっかけを得たり、活動の場として利用したりすることを可能とします。

(3) 「できる」ことが多い滞在型施設

奈良県内では先進的な取り組みとして、コーヒーを飲みながらおしゃべりができる禁止事項の少ない図書館や、天候に関わらず利用ができるプレイスペースを

備え、子どもたちがのびのびと遊ぶことや、大人たちが思い思いのスタイルで過ごすことができる滞在型施設とします。

(4) 本施設だけでなく葛城市全域での検討

本施設の担う役割を葛城市全域にかかわるものと考え、市内他施設との役割分担も同時に整理して検討することで、全市的な視野で捉えればこれまで以上の効果を実現することを目指します。

(5) 継続的な活動を可能とする透明性の高い運用

本施設のサービスによって、多くの活動を継続的に支え続けるためには、施設の維持やサービスに要する費用を明らかにし、利用基準や利用者の負担について明確化することも必要となります。それらにより、市民の様々な活動をつなぎ、支え続けるしくみをもつ施設とします。

(6) 地域共創型へ進化する行政活動の拠点

庁舎機能との複合によって、行政サービスを市民にとってより身近なものにするだけではありません。本施設で働く市職員には、まちのコーディネーターやファシリテーターとしての役割が求められます。本施設を、行政活動が市民・企業・ボランティア・NPO等と共に魅力ある地域の創造を支えるものへ進化する拠点とします。

4. 施設のあり方【本施設がめざす3つのビジョン】

上記を踏まえ、本施設では以下の3つをめざすビジョンとして設定します。ビジョンの主役は施設ではなく市民です。市の限られた資源を最大限に活用することで、本施設はそれらのビジョンを追求し、実現していくための拠点施設となります。

(1) 場ひらき ～市民が「支え合う」～

市民の自主的な活動は、市民同士がお互いの「やってみたい!」「夢を叶えたい!」という願いを支え合う活動ともいえます。より多くの市民が新たな活動をはじめたり、活動に参加したりすることを促すオープンな場をひらきます。

(2) 縁むすび ～市民が「つながり合う」～

これまでの活動への新たな参加者があらわれたり、活動同士がつながったり、まったく新しい活動が生まれたりすることで、市民同士が活動によってつながり合うための拠点となります。本施設内で直接活動ができない場合も、市内各施設をはじめとした活動につなげ、継続できる環境をつくります。

(3) まち育て ～市民が「育ち・育て合う」～

市民がお互いの活動から学び合い、育ち・育て合うことで、まちの更なる魅力向上、すなわち「まち育て」につながります。特に、若者や子育て世代に向けた

活動が生まれる拠点とすることで「ここに暮らしたい。応援したい。いつかは帰りたい」といった意識が育まれることにつながります。

5. 本施設の主な機能

本施設は、管理運営方針の下、市民の学習・文化・子育て・まちづくりを中心とした活動の場として、中でも＜「創る」と「交わる」を支える機能＞を中心とした、3つの機能を基本として運営します。

(1) 「創る」と「交わる」を支える機能（公民館・文化会館事業を継承）

市民が様々な活動を通じて交わり、新たな価値を創ることを支えます。また、それらの活動が継続的に発展していくことができるしかけを工夫します。地域内外の人々の出会いと交流を通じて多様な活動が生まれる「ひろば」の機能も充実させます。

(2) 「知る」と「読む」を支える機能（図書館事業を継承）

市民の様々な活動に役立つ知識を得る（知る）ために、読書をはじめ、情報源となる多様なメディアに触れるための環境を整え、市民ニーズに対応した資料・情報の収集や提供を行います。地域の活動を記録し、共有する機能も持たせます。

(3) 「遊ぶ」と「学ぶ」を支える機能（公民館・文化会館・図書館事業を継承）

学習に遊びを取り入れて楽しみながら学ぶ教育アプローチは「プレイフル・ラーニング（遊びを通じた学び）」と呼ばれます。公民館・文化会館・図書館はすべて、市民の「遊び（レクリエーション）」と「学び」を結びつける場として機能してきました。子どもから大人まで、遊びながら学び、学びながら遊ぶ機能をさらに発展させます。

6. “むすんで・ひらいて”機能融合型施設をめざす

本施設は、前節で示した機能を一体的に連携・融合させた「機能融合型施設」として整備します。

誰もが気軽に心地よく滞在できる、ひらかれた場となるような運営を行うことで、人と人、人と施設の新たな縁がむすばれ、新たな活動が生まれます。このような施設は、コミュニティの形成に欠かせないしかけです。機能融合を活かすため、以下のようなしくみによって運営を支えます。

(1) 施設全体のマーケティングと情報発信

施設の諸機能が、地域住民によく知られ、実際に利用されると同時に、そのニーズや利用状況が施設の運営に反映され、運営の改善や新しいサービスの開発、ファンづくりにつながるマーケティングのしくみをつくりまします。

(2) 運営ボランティアの育成と、協働しやすいしくみづくり

施設全体にかかわる運営ボランティアを募集して活動の拡大を図り、この施設のボランティアとなることが地域住民の誇りと感じられるように工夫します。

(3)地域にひらかれ、人をむすぶ地域共創型行政のインキュベータ

本施設は、行政が地域にひらかれ、人をむすぶ地域共創型に進化していくための、市職員の稽古場であり、実験場ともなります。庁舎機能だけでなく、施設全体を活かし、コーディネーターやファシリテーターとしての能力を実践で鍛え、地域共創型行政の新たなチャレンジを実験し、記録し、発信する場とします。

7. 地域コミュニティを育むしくみ

地域住民が運営の主体となれるよう関わりを続けることをサポートし、地域コミュニティを育むしくみを整えます。

(1)まちひらきアーカイブ

市民活動から生まれる知識・情報をアーカイブとして構築し、まちの魅力を公開（ひらき）ます。住民の電子出版や自主アーカイブ構築も支えます。

(2)むすびメディア

図書等の資料が施設内のどこでも使える環境を整え、豊富な資料を結節点として活かした多彩な活動をくり広げることで、人と人をむすぶ機能を引き出します。

(3)まちの匠（たくみ）

地域にとっていちばんの宝である知恵と技をもつ市民を「まちの匠」として登録し、本施設のセミナー講師等として活躍するしかけを工夫します。

(4)まちの縁むすび

利用者に本施設の応援団となってもらい、口コミによるPRやボランティア活動を通じ、市民と施設、市民同士の縁むすびに参画していただきます。

8. 「創る」と「交わる」を支える機能（市民活動センター機能）

(1)概要

- 貸し館を中心に、様々な自主的活動の場を提供
- セミナー、ワークショップ、主催公演等、新たな活動のきっかけを提供
- フェス、マルシェ、トークイベント等、交流と会話と創作発表の場を提供

(2)運営サービス方針

- サービスは、貸し館・PR協力・「まちの匠」紹介・情報提供が中心
- 新しい活動の立ち上げ、多世代間交流、後継者育成、「縁むすび」を重視
- 「縁結び」は、個人と団体、団体と団体、団体と他施設等の仲介が中心
- 新規活動企画、「まちの匠」育成、ファシリテーター育成等の研修も実施

9. 「知る」と「読む」を支える機能（図書館機能）

(1) 概要

- 資料の閲覧・貸出や調査相談・読書案内といった基礎的サービスを提供
- 障害の有無や世代に関わらず、多様な利用方法に応じたサービスを提供
- 子どもたちが未来を拓くための多様な選択肢を発見する手掛かりを提供

(2) 運営サービス方針

- 人と人、場と場をつなぐ「むすび目」としての資料の整理や展示の方法を工夫
- 新たな利用者層を開拓するため、学校をはじめ多様な機関・団体と連携
- 子どもたちが「好き」を見つけ、追求することを支援
- 子育て世代が親子で遊び、学び、読むことに自然と誘われるしかけ
- 中・高・大学生が、自分の進路や表現等、「自分軸」を見つける場づくり
- 活動する市民に、課題の発見や解決のヒントと励ましを提供
- 障害の有無にかかわらず、市民が「読書ならあそこ」と最初に思えるサービス
- 市民活動を記録し、アーカイブ化
- 中・高・大学生も図書館の企画・運営に参画
- 新庄図書館と一体となり、全館的視野・中長期の視点をもち運営

(3) コレクション及び配架計画

- 子どもの本を充実させることを優先
- 大人向けの本は、従来にくらべ子育て世代向けの入門書・実用書も重視
- 読書のバリアフリーを意識しながら、本以外のメディアも取り入れる
- 司馬遼太郎関係図書や地域資料は引き続き重視
- 利用の量を左右する資料の鮮度維持のため、選書の質と資料費を確保
- 人気書店等を参考にして手に取りたくなる配架方法を取り入れる

10. 「遊ぶ」と「学ぶ」を支える機能(地域共創機能)

(1) 概要

- 子どもの遊び場を始め、全館で市民の、特に子どもたちの遊びを支える「雨が降っても、あそこで遊べる！」
- 子どもも大人も遊びながら学び、学びながら遊ぶことを通じ、好奇心や冒険心を刺激するしかけを全館で用意する

(2) 運営サービス方針

- 囲碁・将棋から国内外のボードゲーム、Eスポーツまで、本気で「遊ぶ」ツールを全館で用意し、ゲーム大会等、普及のためのしかけも工夫
- 学校では習わない、そして学校らしくない、でも「学べる」場としてのしか

けを整えることで、学校と補い合う役割を担う

11. その他の機能

- 庁舎機能
- 防災機能
- 保管機能

12. 図書館システム等計画（略）

※図書館システム他、概要的なこと

13. 管理運営計画

- (1) 組織構成
- (2) 職員の役割
- (3) 管理運営形態
- (4) 開館日・開館時間設定
- (5) セキュリティ
- (6) その他(地球温暖化対策等)

14. その他